

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特1	学校名	茨城県立盲学校						設置学部	幼稚部 小学部 中学部 高等部(本科,専攻科)																							
学校長名	小林 隆二				教頭名	荒原 典夫				事務室長名	菅原 一																						
教職員数	教諭	57	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	5	実習教諭,実習講師,実習助手	6	寄宿舍指導員	17	事務職員	5	技術職員等	12	計	108															
区分	学部	幼稚部			小学部				中学部			高等部本科			高等部専攻科			合計															
	学年	3歳	4歳	5歳	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	1年		2年	3年	計	1年	2年	3年	計								
幼児・児童生徒在籍数			2	4	6	2	2		1	2	1	8	2	5	2	9	5	2	3	10	3	2		5	9	5	4	18	5	6	3	14	70
寄宿舍通学							1				1	2		3	1	4	4	1	1	6	1			1	5	3	3	11	1	4	1	6	30
自宅から通学	自力通学														1	1		1	2	3	2	2		4	4	2	1	7	4	2	1	7	22
	保護者送迎		2	4	6	2	1		1	1	1	6	2	2		4	1			1											1	1	18

2 目指す学校像

- 視覚障害を有する一人一人の幼児・児童・生徒の教育的ニーズに対応した学校
- 全県の視覚障害教育に係る相談や支援などセンター的機能が充実した学校
- 視覚障害教育を中核とした独自の特別支援学校
- 地域や保護者に関われた学校

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導に関する内容	児童生徒の減少，障害の重度・重複化，多様化への対応として，教育内容の充実，指導方法の工夫及び幼・小・中・高等部一貫した教育の充実が求められている。	教材研究や各学部・学年・担当者間の連携，視覚障害教育の専門性を身に付けるための研修の充実。
生徒指導	理療科では成人に達している者もあり，校内・寄宿舎で喫煙している生徒がいる。進路先としての施術所や病院等では嫌煙・禁煙の傾向にある。	敷地内禁煙施行に向けての指導及びあはき師としての心構えの指導の充実。
進路指導	高等部卒業生のあはき師国家試験では僅かながら不合格者が出ている。	あはき師国家試験受験に向けての対策及び重複障害者の進路の拡充。
センター的役割	学校公開，サマースクール開催，リーフレットの配布等による理解・啓発活動を本校なりに努力してはいるが，県全域に十分に伝わっているかどうか心配な部分がある。	本校の理解・啓発活動がニーズのあるところに周知されているかどうかリサーチする必要性。 関係諸機関との一層の連携。

4 中期的目標

- 1 視覚障害に基づく種々の困難を克服するために必要な諸能力を養うと共に，幼稚園，小学校，中学校又は高等学校の教育内容を確実に身に付けることができる。
- 2 個別の教育支援計画を策定すると共に，地域・関係諸機関とのネットワークづくりを行う。
- 3 他の障害を併せ有する幼児，児童，生徒については，特に能力特性に即し，発達を重視した指導を行うことによって可能性を最大限に引き出す。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	視覚障害教育の実践的研究	授業研究を推し進めながら，「チームティーチング」，学習集団の編成等，一人一人の障害の実態や特性等に応じた授業形態や指導方法の工夫・改善に努める。	

1 年次	個のニーズへの対応	個別の指導計画に基づく指導の充実を図ると共に、個別の教育支援計画の策定に努める。 特別支援教育コーディネーターの育成と校内の体制づくりに努める。	
	センター的役割の実践	学校公開，サマースクール開催，リフレットの配布等による理解・啓発活動，教育支援サービスの発信，教育相談等を行う。	
2 年次	視覚障害教育の実践的研究	障害の克服に向けて、個別の指導計画に基づいた自立活動の指導(点字，弱視レイス，拡大読書器等の活用)に努める。	
	個のニーズへの対応	個別の教育支援計画の有効な利用に努め，医療・福祉・労働等の関係諸機関との連携を図り，個別移行支援計画を作成する。	
	センター的役割の実践	幼稚園，小・中学校，関係諸機関とのネットワークづくりを行う。	
3 年次	視覚障害教育の実践的研究	職業的に自立し，社会参加をするための理療科教育の充実に向けた教育課程のあり方を検討する。	
	個のニーズへの対応	居住地校交流のニーズを調査し，必要に応じて推進する。 視覚障害教育を中核とした独自の特別支援学校の体制づくりに努める。	
	センター的役割の実践	教育相談や授業を出前的にできるシステムづくりに努める。	